

少子化対策のパラダイム転換

—— 新しい家族政策へ ——

2013年3月、森雅子内閣府少子化対策担当特命大臣のもとで、「少子化危機突破タスクフォース」がスタートし、従来の少子化対策から男女の一生を通じたライフステージ、すなわち誕生から成長、結婚・妊娠・出産・育児といった人の再生産の各段階を社会として支えるための政策が検討された。安倍内閣の「少子化社会対策会議」は緊急対策として「子育て支援（待機児童解消加速化を含む）、働き方の改革、ならびに結婚・妊娠・出産支援」の三本柱を示した。とくに、これまでの政権で取り組みが弱かった部分として取り組みが強調されている。

これまで日本人口学会は少子化問題や低出生率の人口学的なメカニズムの解明を始めとする様々な観点から学術的テーマとして学会大会のシンポジウムや企画セッション、テーマセッションにおいて研究活動を展開してきた。こうした学術的知見の蓄積をより一層広く政策立案者や社会の各層へ還元し、公開シンポジウムを通して学術研究への課題を学会として受けとめることを目的として公開シンポジウムを企画した。

組織者： 高橋重郷（明治大学）

座 長： 安藏伸治（明治大学）

基調講演： 少子化対策、政府の取り組み 森 雅子

（少子化対策担当大臣）

学術報告： 少子化・低出生率

1. 人口統計学の視点から 金子隆一

（国立社会保障・人口問題研究所）

2. 生殖医療の視点から 早乙女智子

（神奈川県立汐見台病院）

3. 結婚・出生研究の視点から 松田茂樹

（中京大学）

4. 家族研究の視点から 加藤彰彦

（明治大学）

討論・総括： 原 俊彦（札幌市立大学）